

21-6 男女共同参画推進専門委員会議事概要

日時 平成21年10月27日(火) 9:15~10:40

場所 総合研究棟Ⅱ 第2会議室

出席者 後藤理事、小川学長補佐

江成、中島、大西、松村、門脇、花見、石阪、水落、中西、鈴山

◎ 前回議事概要の確認

後藤理事から、事前にE-mailで確認した21-5男女共同参画推進専門委員会議事概要については配付資料のとおり記録にとどめた旨の報告があり、了承された。

I 検討事項

1. 「男女共同参画に関する意識調査」の結果について(資料1)

鈴山コーディネーターから、「資料1」に基づき、8月に実施した意識調査の結果について報告があった。検討の結果、この「結果報告(素案)」を基に学内に報告していくこととした。なお、報告の内容については引き続き各自が精査し、気づいた点があれば随時人事チームまで連絡することとした。

◇主な意見

- 人材育成WGにおいてアンケート結果を踏まえて検討したが、人材育成・啓発の観点から全学的な研修が必要だという意見に達した。また、管理職の方にも研修をしていただく必要があるという意見もあった。については、年内(11~12月)に、アンケート調査の報告に研修会の要素を加えたものを学部別に実施したい。また、この調査結果を各WGで分析して取りまとめ、それを用いて年度内(1~2月)に全学的な研修会を行いたい。
- アンケート結果は早めに学内に報告すべきである。報告の方法と内容は検討が必要である。
- 県民へのアンケートと同一内容の質問について比べれば、意識は県民の平均よりずっと高いことがわかる。自由記述については率直に書かれており、通常見られないような意見もあった。
- 保育に関することについては、該当する人数はあまり多くないが、多くの方が必要であるという認識を持っていることがわかった。
- 自由記述部分の報告方法については検討しなければならない。
- 前回のアンケートでは結果を報告せず、「結果はどうなったのか」という意見も聞かれた。
- 前回よりも意識は上がっていると思われる。子育てや保育園の支援が必要であるということについては9割以上が賛成している。一方、ネックになっているのが「トップの意識」や「上司の理解」という結果なので、トップや上司の意識を変える必要があると言える。
- 名古屋大学の保育や学童の施設は立派であるが、現在の児童数は少ない。アンケートで保育園が必要だと考えている方は多いが、実際の利用者はどうなのかとも感じた。
- 配偶者の就業状況が結構高いと感じた。男性が積極的に家庭に関わるといった面からの制度整備や、夫婦で家庭と仕事を両立できるよう、職場にいる時間をできるだけコンパクトにすることや、夜間保育や病児保育、ベビーシッター支援等、様々な角度からのサポートが必要だと思った。
- 回答者のうち非常勤職員が30%、介護・看護を必要とする家族がいる方が15%ということで

あり、制度整備を進める際にこういった部分を考慮する必要がある。

- 制度改革等について、女性だけのための対策であってはいけない。男女共同参画は男性と女性の両方の問題であり、バランスをとって進めていかなければならない。
- 短期的に進めなければいけないのはワークライフバランス、その中でも短時間勤務制度である。長期的には管理職、特に事務職員の男女比の見直しである。今回のアンケートは政策や制度設計に結びつけるための調査でもある。学長や副学長には三重大学としてのビジョンやスタンスを示してもらおうと、制度上の力点を置くべきところが見えてくると思う。戦略的にどう位置づけるか、制度をどう変えていくのか、という形で進めていただけると委員会としても進めやすい。
- そういった意味でも、管理職やトップ層の方々にこういった情報をしっかり伝えた上で、委員会の考えを申し上げる機会がないといけないと思う。単に結果を見てもらうだけではだめで、現在ワーキングで検討している提言をいかに全体の運営に結びつけていくかということが重要な課題である。
- 学部別の説明会はどこに重点を置くのか。アンケートの結果全般を説明するのか、狙いを絞ってするのか。また、この結果を受け、次のアクションを起こさなければならない。
- アンケート調査の結果を学内に返し、どう思うかを問いかける部分も必要である。学部別に展開して行くとすると、学部別の特色までは分析した上で報告する必要がある。また、報告の際には、ご意見をいただけるようなアンケートも必要と思われる。一方的に返すのではなく、リターンがあるようにしたい。それには報告を速やかにすることが大切である。次に、年が明けてから全学的な機会を設け、専門的に分析した内容を報告したい。次年度は、研修を制度的に位置づけていけたら、と思う。
- 年度末に報告書を取りまとめていくことになるが、配布のデータを元に各自分析を進めていただきたい。

2. 各ワーキンググループでの検討状況について

・人材育成WG（鈴木主査）

アンケート結果の報告会を、学部別（11～12月）及び全学的（1～2月）に開催したい。なお、学部別で行うものについては、開催場所や日時、多くの方にお集まりいただくための効果的な方法についてお教えいただきたい。

・制度整備WG（大西主査）

本学の育児休業等に関する規定を見直したが、概ね国の基準に準じて定められていて良いと思われる。ただし、非常勤職員の産休が無給であることについて、検討の余地があるのではないかという意見が出ている。

育児短時間勤務の導入については、使いやすい制度となるように代替職員の制度とセットで整備すべきである。具体的にどこまでの待遇でできるかは、大学のトップの考えにかかっている。

介護休業についても育児短時間勤務と同様の制度を導入する方向で提言をしたい。ただし、育児と異なり、介護の場合には期間的に長期に渡る場合が考えられる。そういった状況に応じて、代替職員を含めどのように手当でするのか、この制度が上手くいくかどうかのポイントである。具体的な内容に関しては今後検討していく。

◇主な意見

○代替職員については、予算と、後任がすぐ得られるかという問題がある。

・環境整備WG（中西主査）

報告事項なし。

◇主な意見

○さつき保育園には、運営の話とは別に、教育やボランティアの場ということから、学生が子どもや人間について学ぶ機会としてお考えいただきたい。

3. その他

鈴山コーディネーターから席上配付資料に基づき、男女共同参画に関する情報の説明があった。

II 報告事項

1. その他

①次回開催日

11月24日（火）9：15～

以 上